

平成 29 年度 教育関連事業の概要

1 区長関連予算

(1) 防災関連

地域防災事業（防災講座）（平成 29 年度予算額 1,720 千円）

【事業概要】

地域の方の防災意識を高めるため、防災講座（土曜授業）、子どもや若い親子を対象とした防災訓練・防災教育（イザ！カエルキャラバン）などによる防災啓発事業を実施する。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

- ・土曜授業では、ニーズに応じた学年ごとの防災学習メニューの提供や、必要に応じて地域防災リーダーや消防署などと連携した取組みを展開。
- ・おもちゃの交換を通じてゲーム感覚で防災の知識や知恵、技が学べる防災イベント「イザ！カエルキャラバン」により、子どもが家族ぐるみで楽しく防災を学べる機会を提供。
- ・子どもから自助・共助（近助）による地域防災力の向上を図る。

(2) 生涯学習・地域関連

小学校教育協議会 - はぐくみネット - （平成 29 年度予算額 1,204 円）

【事業概要】

区内における地域の教育資源を学校教育に導入する等、地域に開かれた学校づくりを進め、子どもたちの「生きる力」をはぐくむとともに、学校・家庭・地域が一体となった総合的な教育力を発揮し、地域における人と人のつながりによって子どもをはぐくむ「教育コミュニティ」づくりを推進することを目的に、各小学校区の教育協議会 - はぐくみネット - へ事業を委託し、学校と地域が連携する取組み（体験活動・見守り活動等）、地域の人材を教育資源として活用する取組み（ゲストティーチャー等）及びこれらの取組みに関する情報発信等を実施している。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

- ・これまでの間、各小学校区教育協議会 - はぐくみネット - や地域活動協議会を中心に次代を担う子ども・青少年のすこやかな成長を地域全体で見守りはぐくむためにさまざまな取組みを実施してきた結果、近年当区においては子ども・青少年に関わる大きな事件・事故は発生していない。

生涯学習ルーム事業（平成 29 年度予算額 1,054 千円）

【事業概要】

区内にある大阪市立小学校の特別教室等諸施設を活用し、地域住民の自主的な文化・学習活動や交流活動の場を提供するとともに、身近な講座等の開催を通じて、学習機会の提供を行い、地域における生涯学習活動の拠点としての役割を果たし、生涯学習の推進及びコミュニティづくりに寄与することを目的に、各小学校の生涯学習ルーム運営委員会へ事業を委託し、地域課題会計に向けた講座や文化的な講座を実施している。

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

・平成29年度区民モニターアンケートで生涯学習ルーム事業の認知度が2割程度であったこと及び平成29年度の旭区生涯学習推進会議において生涯学習ルーム事業周知がされていないという意見があったため、平成29年9月～1月の広報あさひへの記事掲載並びに平成29年10月に各校下でチラシを回覧する。

学校体育施設開放事業（平成 29 年度予算額 1,266 千円）

【事業概要】

区内にある大阪市立の小学校及び中学校の体育施設を学校教育に支障がない範囲で地域に開放し、地域住民に継続的にスポーツ活動の場や機会を提供するとともに、地域住民の健康増進、生涯スポーツの振興、生活の質の向上に寄与することを目的に、各小学校・中学校の学校体育施設開放事業運営委員会へ事業を委託し、事業を実施している。

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

・委託業務にかかる会計事務が負担であるという意見があったため、平成29年度からは従来の有償の業務委託と区が必要物品を支給する無償の業務委託のいずれか選択できるようにした。

校庭等の芝生化事業（平成 29 年度予算額 479 千円）

【事業概要】

地域住民が校庭等を芝生化することにより、子どもたちが緑の中で遊べる環境をつくり、その活動を通じて地域のコミュニケーションを活性化させ、地域づくりの実現をめざすことを目的に実施している。当区では、地域住民が「旭区校庭等の芝生化事業補助金」を活用して平成 26 年度に大阪市立高殿小学校、平成 27 年度に大阪市立旭陽中学校の中庭で芝生化が実施された。両校とも芝生化後は、「旭区校庭等の芝生化事業補助金（維持管理）」を活用して維持管理が行われている。なお、「旭区校庭等の芝生化事業補助金（維持管理）」の交付期間は3年間となっている。（高殿小学校は平成 29 年度で終了、旭陽中学校は平成 30 年度で終了）

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

・両校とも事業の効果測定を行うために、イベント参加者等に対してアンケートを実施しており、平成28年度の結果では、「地域のコミュニケーションが活性化されていると感じる」と回答した人の割合が、高殿小学校で51.43%、旭陽中学校で48.00%となった。

(3) 福祉関連

発達障がいサポート事業（平成 29 年度予算額 1,048 千円）

【事業概要】

行動面で支援が必要な発達障がいのある児童生徒に対し、校外授業やクラブ活動などの課外活動や登下校の介助などのサポートを、登録支援員により区内の 1 公立幼稚園・10 小学校・4 中学校で実施している。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

- ・学校からのニーズはあるがサポーター確保の難しさから、28 年度までの実績では配置希望時間と利用時間に乖離があったが、校長会等で利用についての説明をして、改善をお願いした。
- ・学校への配置希望アンケートの中では、「校外へ出る時にサポーターがいると、安全面での配慮が充分にできる」「登下校の支援があると教員の負担が軽減される」等、効果を認識いただいている。

あさひ学び舎事業（平成 29 年度予算額 4,878 千円）

【事業概要】

- ・学業や進学環境が十分に用意されない生活困窮世帯及び生活保護受給世帯等の子どもが成長し、再び生活困窮に至るという「貧困の連鎖」を断ち切るために、中学生に対して学習支援、生活指導や開発教育などを行い、高校進学による子どもの自立促進を図る。

【対象者】

- ・生活困窮世帯及び生活保護世帯等の中学生、定員 30 名。
- ・高校進学者に対するフォローアップ（学び舎卒業生対象）20 名程度。

【実施内容】

- ・宿題の履行等学力向上のための学習支援を実施する（週 2 回、1 回あたり 2 時間）。
習熟度別、課題別に分けて学習を実施する。
高校進学者については中退を防ぐことを目標とする。
- ・食育として調理実習を行い、栄養学等や自炊する力をつける（月 1 回）。
- ・コミュニケーション能力の向上のための、参加型・ワークショップ形式の学習や討論形式のプログラムを開催し、生活力の向上を図る（月 1 回）。
- ・野外活動・体験学習を実施する（年に 1～2 回）。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

- ・27 年度卒業生 5 名全員高校進学、28 年度卒業生 11 名全員進学（高校 9 名・専門学校 2 名）。極端な例では九九から学び直しているケースもあるが、全体的に学力は上昇している。
- ・コミュニケーションが苦手な下ばかり向いていた児童が、行事にも積極的に参加し、ボランティアと会話をするようになってきた。
- ・各中学校とも連携し情報交換を行って指導している。不登校で学校には行けないが、学び舎には参加できる児童や、徐々に登校ができるようになってきた児童もいる。
- ・調理実習で作った料理を家庭で作り親にふるまったというエピソードも聞いている。
- ・卒業生の親へのアンケートでは、学び舎に参加していなければ進学はできなかったという声があり、親子でお礼のため来庁した親子もあった。

放課後おさらい事業（平成 29 年度予算額 5,158 千円）

【事業概要】

家庭学習が不十分で学習のサポートが不可欠な児童に、基礎的な学力に遅れが生じさせないフォローとして、小学校と連携し、ボランティア教員、学生等による「放課後おさらい教室」を、区内の 10 小学校において実施する。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

- ・各学校へのアンケート調査で、保護者の反応として、「学習を丁寧に見てもらえるので、理解が進んだ。」「帰宅しても学習ができにくい家庭において、学校で学習を見てもらえることにとてもありがたいと連絡をいただいている。」などと好評をいただいている。
- ・各学校へのアンケート調査で、ほとんどの学校から「学習のつまずきの補充に役立っている。」「学力向上に成果があった。」と回答があり、学校においても効果を認識いただいている。
- ・保護者・学校からのニーズもあることから、29年度は各学校の実績に応じて予算を配分する。

こども食堂支援事業（平成 29 年度予算額 801 千円）

【事業概要】

区内 5 箇所で実施しているこども食堂への支援として、勉強に興味を持たせることを主な目的とした学習のための有償指導員を派遣、学習意欲の向上に資する専門的な講習を行うための講師の派遣、勉強する雰囲気を作れたところから、しっかりと勉強するための学習サポーターを派遣、教材の購入、などを行う。

また、旭区内のこども食堂の現等について情報共有を行うネットワーク会議を開催や、区民にこども食堂を理解し、応援してもらうためのPRを行う。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）

平成29年度予算では、「個別の学力に合わせた学習支援を行うため、地域や大学生からボランティアを募り、学習サポーターとして派遣する。」としていたが、実態として、こども食堂によって差はあるが、総じてしっかりと勉強する雰囲気にはまだなく、まずは勉強に興味を持たせることが急務であることも分かった。このことから、それぞれのこども食堂の実態を踏まえた段階的な支援とするため学習支援の内容を変更することとした。

(4) 【こども青少年局・区 CM】児童いきいき放課後事業（平成 29 年度予算額 119,679 千円）

【事業概要】

児童の放課後等における安心・安全な居場所づくり及びさまざまなプログラムを通じた児童の健全育成を図ることを目的に、区内の各市立小学校において「児童いきいき放課後事業」を実施している。

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

- ・平成29年度に区が実施した利用者及び利用予定者を対象にしたアンケートに基づき、平成30年度の事業者募集における「区が期待するもの」として次の事項を求めている。
- ・充実させてほしいものとして、「宿題の対応」、「スポーツ活動」及び「復習程度の学習支援」について希望が多かったので、当該アンケート結果を踏まえた事業提案が望ましい。なお、復習程度の学習支援について、充実を行う場合は、当区の「放課後おさらい教室」との連携を図ったものとする。
- ・利用時間の延長については、終了時間だけでなく、開始時間についても提案されることが望ましい。また、延長の単位については、30分単位などニーズを踏まえた、利用しやすい延長単位を提案されたい。
- ・補食（おやつ）の提供をする際は、運営委員会と協議し、衛生面やアレルギーに留意すること。
- ・地域との交流事業、工作等の講座、スポーツ教室等を実施する際は、地域活動協議会等との連携を図ること。
- ・学校と連携（学校行事の確認と学習支援に関する事項）を図ること。
- ・保護者（就学前の児童の保護者を含む）に「いきいき」の活動内容を知ってもらえるよう、情報紙の発行及び説明会や体験会を開催すること。

2 教育委員会予算（区担当教育次長執行枠）

- (1) 旭区学校教育サポート事業（平成 29 年度予算額 3,392 千円）
 ベーシックサポート事業（平成 29 年度予算額 3,198 千円）

【事業概要】

放課後の時間帯等に区内中学校の空き教室等を活用して、学校の宿題や学習プリントなどによる復習等の自主学習を行う場を提供するとともに、退職後教員、大学生、地域住民などの支援員による自主学習の支援を行う。

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

- ・平成28年度より区内4中学校で実施している。

小学校教員研修事業（平成 29 年度予算額 194 千円）

【事業概要】

区内小学校教員の専門的知識及び指導力の向上を目的に外部有識者等による講演等を行う。

(主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など)

- ・平成28年度より区長が「区教育担当次長」の任を担うこととなり、各区における学校の状況や地域の実情に応じた効果的なサポートが求められており、旭区では、区教育行政連絡会等を通じて区内小中学校における課題について議論を進めているところであり、「教員の多忙化解消」等について取り組んでいる。

(2) 旭塾（平成 29 年度予算額 1,062 千円）

【事業概要】

民間事業者を活用して、区内中学生を対象に、基礎学力の向上等、子どもの習熟に応じた学力向上及び学習習慣の形成を図るため、区内中学校の放課後等の教室で課外授業を行う。

（主な変更点・成果・ニーズ・意見の反映など）
・平成29年度からの新規事業で、10月から事業開始